古墳時代

名前

問1　「大陸の王朝の力を利用して国づくりをはじめた」とされる5世紀の倭の王について、当時の国際情勢と外交方針を述べた文として正しいものはどれですか。（2017年 長野県公立入試 類似）

1. 足利義満が明の皇帝から「日本国王」の称号を得て、勘合貿易を開始した
2. 元（モンゴル帝国）の侵攻に備えるため、高麗と協力して大陸の情報を収集した
3. 倭の王は南朝へ朝貢し、朝鮮半島南部における立場を有利にするための承認を求めた
4. 聖徳太子が遣隋使を派遣し、中国の皇帝と対等な外交関係を築くことを目指した

問2　日本の関東地方、現在の埼玉県に位置する前方後円墳からは、115文字の銘文が刻まれた金錯銘鉄剣（きんさくめいてっけん）が出土しています。この鉄剣に記された「ワカタケル大王」という名は、当時のヤマト政権の首長を指すとされています。この鉄剣が出土した古墳の名称として正しいものを選んでください。（2016年 三重県公立入試 類似）

1. 江田船山古墳
2. 稲荷山古墳
3. 箸墓古墳
4. 大仙陵古墳

問3　5世紀後半のものとされる埼玉県稲荷山古墳出土の鉄剣や、熊本県江田船山古墳出土の鉄刀には、「ワカタケル大王」という名が刻まれています。この事実から推測される当時のヤマト政権の様子について、最も適切な説明はどれですか。（2026年 和歌山県公立入試 類似）

1. 大王の地位は固定されておらず、各地の豪族が交代でその任に就いていた。
2. 大王は奈良盆地周辺のみを治める、限定的な勢力に留まっていた。
3. 大王の支配力が、関東地方から九州北部まで広範囲に及んでいた。
4. 各地の豪族が大王の許可なく、独自に大陸と外交を行っていた。

問4　埼玉県の稲荷山古墳から出土した、表面に「獲加多支鹵大王（ワカタケル大王）」という文字が金色の象嵌で刻まれた遺物について、その名称として正しいものを選んでください。（2021年 大阪府公立入試 類似）

1. 金印
2. 埴輪
3. 鉄剣
4. 銅鏡

問5　群馬県の綿貫観音山古墳から出土した資料などに見られる、灰色で硬く焼き締められた土器の製作上の特徴について述べた文として、最も適切なものはどれか。（2021年 群馬県公立入試 類似）

1. 日本列島で古くから用いられてきた伝統的な技法で、野外で比較的低い温度で焼かれた
2. 中国大陸の青銅器の影響を強く受け、表面に複雑な幾何学文様を彫り込んで焼かれた
3. 稲作が普及し始めた時期に、表面に縄目の文様をつけてから乾燥させて焼かれた
4. 朝鮮半島から伝わった技術を使い、穴窯の中で酸素を制限しながら高温で焼かれた

問6　世界文化遺産に登録された百舌鳥・古市古墳群に含まれ、5世紀頃に築造された日本最大の前方後円墳として知られる、当時のヤマト政権の強大な勢力を象徴する古墳はどれか。（2020年 鳥取県公立入試 類似）

1. 箸墓古墳
2. 高松塚古墳
3. 大仙古墳（伝仁徳天皇陵）
4. 稲荷山古墳

問7　古墳時代には、巨大な墳墓の周囲や頂上に、土で作られた焼き物が並べられました。これらには円筒形のもののほか、家、馬、あるいは武具を身につけた人物をかたどったものがありますが、これらを総称して何と呼びますか。（2015年 岡山県公立入試 類似）

1. 勾玉
2. 埴輪
3. 土偶
4. 銅鐸

問8　世界文化遺産に登録された百舌鳥・古市古墳群には、5世紀頃に造られた日本最大の前方後円墳である大仙古墳が含まれている。このような巨大な古墳が築かれた時代の外交の特徴として、適切なものはどれか。（2020年 香川県公立入試 類似）

1. 中国の南朝へ使者を送り、自らの地位を認めてもらう活動を行った。
2. 元（モンゴル）からの服属要求を拒否し、九州沿岸の防備を固めた。
3. 唐へ遣唐使を派遣し、律令に基づく中央集権的な国家体制を導入した。
4. 中国の北朝へ使者を送り、仏教を公式に伝えるよう要請した。

問9　5世紀頃、近畿地方を中心とする大和政権（ヤマト王権）の支配が各地に広がっていったことを示す資料として、大阪府にある大山古墳（仁徳天皇陵）のような巨大な前方後円墳が築かれました。こうした時期に、地方の有力者の墓から出土したもので、大和政権の王の名称が刻まれていたとされる遺物はどれですか。（2017年 愛知県公立入試 類似）

1. 漢の皇帝から授けられたとされる金印
2. 王の名称が刻まれた鉄剣や鉄刀
3. 近畿地方で多く見つかっている銅鐸
4. 装飾が施された石包丁

問10　古墳時代において、近畿地方から始まったとされる前方後円墳が、後に徳島県や香川県など近畿以外の地域でも築かれるようになりました。この「前方後円墳」が普及した主な要因として、当時の政治体制の仕組みから説明したものとして適切なものはどれですか。（2023年 愛知県公立入試 類似）

1. 地方の豪族が大和政権に対抗するために、あえて近畿とは異なる独自の形式の古墳を築いたため
2. 大和政権が全国に国司を派遣し、地方の文化をすべて近畿のものに統一する政策をとったため
3. 大和政権と結びついた地方の豪族が、自らの地位や権威を示すために共通の形式で墓を造ったため
4. 班田収授法によって、全国の農民が等しく古墳を築く権利を認められたため

問11　4世紀から6世紀ごろにかけて、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移り住み、当時の日本に欠けていた高度な技術や文化を伝えた人々を何と呼びますか。（2023年 新潟県公立入試 類似）

1. 防人
2. 渡来人
3. 御家人
4. 遣隋使

問12　古墳時代中期（5世紀後半）におけるヤマト政権（大和政権）の勢力圏の広がりを説明する記述として、最も正しいものはどれですか。（2020年 和歌山県公立入試 類似）

1. 仏教を政治に取り入れた聖徳太子が、全国に国分寺を建てることで、九州から関東までの地方組織を直接支配していたことがわかる。
2. 関東地方の稲荷山古墳と九州地方の江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀に共通の王の名が見られることから、支配が九州から関東まで及んでいたと判断できる。
3. 『魏志』倭人伝に記された女王の朝貢記録により、中国から認められた政権が全国の地方豪族を完全に服従させていたことがわかる。
4. 近畿地方を中心に巨大な前方後円墳が作られ始めたことから、この時期にはすでに東北地方まで完全に統一されていたと判断できる。

問13　埼玉県の稲荷山古墳から出土した鉄剣には、当時のヤマト政権（ヤマト王権）の支配者の呼び名が刻まれています。この鉄剣の銘文に見られる、当時の最高権力者の称号として正しいものを選びなさい。（2016年 高知県公立入試 類似）

1. 皇帝
2. 関白
3. 大王
4. 天皇

答え合わせ・解説

問1	答え 3 倭の王は南朝へ朝貢し、朝鮮半島南部における立場を有利にするための承認を求めた	5世紀の倭の王たちは、中国の南朝に使いを送り、皇帝から「安東大将軍」などの称号を授かりました。これは中国の国際秩序の中に組み込まれることで、朝鮮半島南部での自国の影響力を正当化し、他の諸国との交渉を有利に進める狙いがありました。他の選択肢は、飛鳥時代、鎌倉時代、室町時代の出来事です。
問2	答え 2 稲荷山古墳	埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には、雄略天皇（大泊瀬幼武尊）を指すとされる「ワカタケル大王」の銘文が刻まれていました。これは、5世紀後半のヤマト政権の支配力が関東地方にまで及んでいたことを示す決定的な証拠となっています。熊本県の江田船山古墳から出土した鉄刀にも同様の名が見られ、支配の広がりを裏付けています。
問3	答え 3 大王の支配力が、関東地方から九州北部まで広範囲に及んでいた。	遠く離れた埼玉と熊本の両地域から同じ大王の名が記された遺物が出土したことは、5世紀後半までにヤマト政権の勢力（大王の権威）が関東から九州北部にまで拡大し、各地の豪族を服属させていたことを裏付ける重要な証拠となっています。
問4	答え 3 鉄剣	稲荷山古墳から出土したこの鉄剣には、115文字に及ぶ漢字が刻まれており、当時の政治状況や文字の使用状況を知る一級の史料となっています。刻まれた「獲加多支鹵大王」は、日本書紀や古事記に登場する雄略天皇を指すと考えられています。
問5	答え 4 朝鮮半島から伝わった技術を使い、穴窯の中で酸素を制限しながら高温で焼かれた	群馬県の綿貫観音山古墳から出土したような灰色の硬質な土器は須恵器と呼ばれます。これは5世紀頃に朝鮮半島から伝来した技術で、斜面に作った穴窯を使用することで、野焼きでは不可能な1000度以上の高温状態を保って焼成されました。この製法によって粘土が焼き締まり、金属のような硬さを持つ土器が誕生しました。
問6	答え 3 大仙古墳（伝仁徳天皇陵）	大阪府にある大仙古墳は、5世紀のヤマト政権の最盛期に築かれた日本最大の古墳です。これほど巨大な墳墓を築造できたことは、当時の政権が朝鮮半島から確保した鉄製工具を用い、大規模な土木作業を指揮できるほどの強大な権力を持っていたことを物語っています。
問7	答え 2 埴輪	古墳の周囲や墳丘の上に並べられた土製品を埴輪（はにわ）と呼びます。埴輪には、王の権威を示す役割や、葬儀の儀式の様子を再現する役割があったと考えられています。縄文時代に魔除けや安産を祈願して作られた「土偶」とは、作られた時代や目的が異なるため、混同しないよう注意が必要です。
問8	答え 1 中国の南朝へ使者を送り、自らの地位を認めてもらう活動を行った。	大仙古墳に代表される巨大な前方後円墳が造られた5世紀は、大和政権の王（倭王）が自らの権威を内外に示すために、中国の南朝へ朝貢した時期と重なります。この時期の外交は、朝鮮半島での軍事的な立場を強化し、鉄器の材料となる鉄資源の供給源を確保することが大きな目的の一つでした。
問9	答え 2 王の名称が刻まれた鉄剣や鉄刀	5世紀の大和政権の王（大王）は、支配下に入った地方の有力者に対して、その地位を認める証として名前を刻んだ刀剣などを与えました。埼玉県（稲荷山古墳）や熊本県（江田船山古墳）といった遠く離れた地域の有力者の墓から、同じ王の名が刻まれた遺物が見つかっていることは、政権の勢力が関東から九州まで及んでいたことを裏付ける重要な証拠となっています。
問10	答え 3 大和政権と結びついた地方の豪族が、自らの地位や権威を示すために共通の形式で墓を造ったため	前方後円墳の広まりは、大和政権を中心とした政治的な秩序が形成されていたことを裏付けています。地方の豪族は大和政権から認められることで自らの支配権を正当化し、その象徴として大和政権の王と同じ形式の古墳を築きました。班田収授法や国司の派遣は、後の律令時代の制度であり、古墳時代の大和政権による統治体制とは異なります。
問11	答え 2 渡来人	朝鮮半島での戦乱を逃れるため、あるいは大和政権による招きに応じて日本列島にやってきた人々です。彼らは養蚕、機織り、金属加工、土木技術のほか、漢字や儒教、仏教といった学問や宗教も伝え、古代日本の国家形成に大きな影響を与えました。
問12	答え 2 関東地方の稲荷山古墳と九州地方の江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀に共通の王の名が見られることから、支配が九州から関東まで及んでいたと判断できる。	ヤマト政権の支配範囲が拡大したことを示す考古学的な証拠は、文字が刻まれた金属器の出土です。埼玉県の稲荷山古墳から出土した金錯銘鉄剣（きんさくめいてっけん）と、熊本県の江田船山古墳から出土した銀象嵌銘大刀（ぎんぞうがんめいたち）には、ともに「ワカタケル大王」という名が刻まれていました。これは、地方の有力者がヤマト政権の大王に仕えていたことを示しており、当時の政権の勢力が九州から関東まで及んでいた確かな根拠となります。
問13	答え 3 大王	古墳時代のヤマト政権において、最高権力者は「大王（おおきみ）」と呼ばれていました。埼玉県の稲荷山古墳から出土した鉄剣には「ワカタケル大王」の名が刻まれており、この称号が当時の支配者を表していたことを示しています。「天皇」という称号が公式に使われ始めたのは、7世紀後半の天武天皇・持統天皇の時代からであると考えられています。